

昭和

議会だより

第

69

号

平成25年10月15日 9月定例会

＜群馬県昭和村議会＞

横浜市と昭和村
協定締結

2・3 平成24年度決算認定

4・5 9月定例会で決めたこと

8～10 村の姿勢を問う

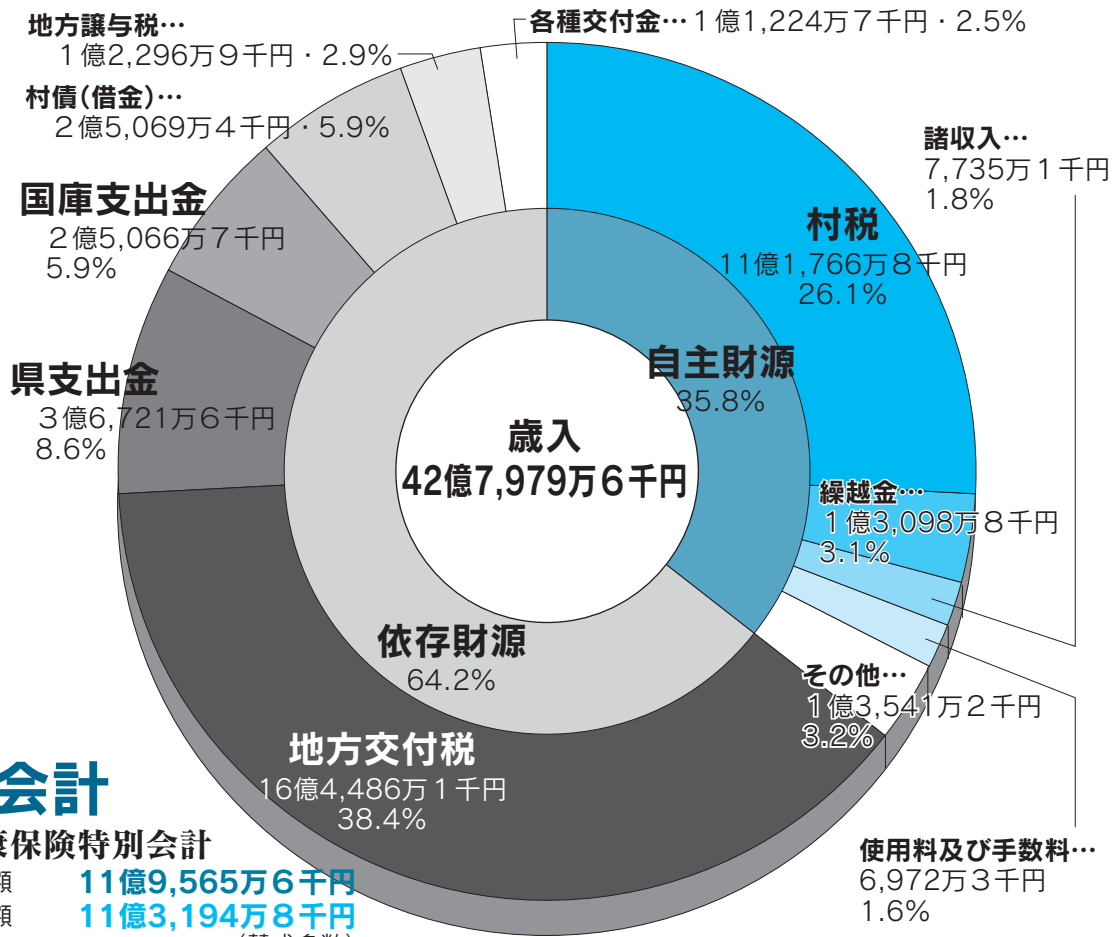
12～15 イーグルポイント市を表敬訪問

16・17 みんなの声

横浜市と友好・交流協定を締結

一般会計及び特別会計の決算は、単年度収支において黒字となりましたが、今後も、財政健全化に向け、効率的な財政運営の徹底と経費の節減に取り組まなければなりません。なお、一般会計歳入・歳出決算については、賛成多数により認定することに決定しました。

一般会計 歳入 42億7,979万6千円 (前年度比1.7%増)



特別会計

国民健康保険特別会計
歳入総額 11億9,565万6千円
歳出総額 11億3,194万8千円
(賛成多数)

簡易水道事業特別会計
歳入総額 1億2,999万円
歳出総額 1億1,909万3千円
(全員賛成)

農業集落排水事業特別会計
歳入総額 3億1,096万6千円
歳出総額 2億8,766万8千円
(全員賛成)

介護保険特別会計
歳入総額 6億7,841万9千円
歳出総額 6億5,611万2千円
(賛成多数)

後期高齢者医療特別会計
歳入総額 7,638万2千円
歳出総額 7,598万6千円
(賛成多数)

財政運営の状況

(単位：%)

	22年度	23年度	24年度
財政力指数 地方公共団体の財政力の強弱を示す指数。1に近い(あるいは1を超える)ほど財政に余裕があるとされる。	0.430	0.430	0.424
経常収支比率 経常的な一般財源がどの程度経常的な経費に充てられているかを示す指数。数値が高いほど財政が硬直化し、70%~80%の範囲が望ましいとされている。	77.2	84.7	82.3
公債費比率 一般財源の標準的な規模に占める公債費の比率。公債費は義務的経費であり、10%を超えないことが望ましいとされている。	4.3	4.0	3.2
実質公債費比率 一般財源の標準的な規模に占める公債費のほか、公営企業会計や一部事務組合が負担する公債費、債務負担行為などを加味した比率。	12.4	11.2	10.4

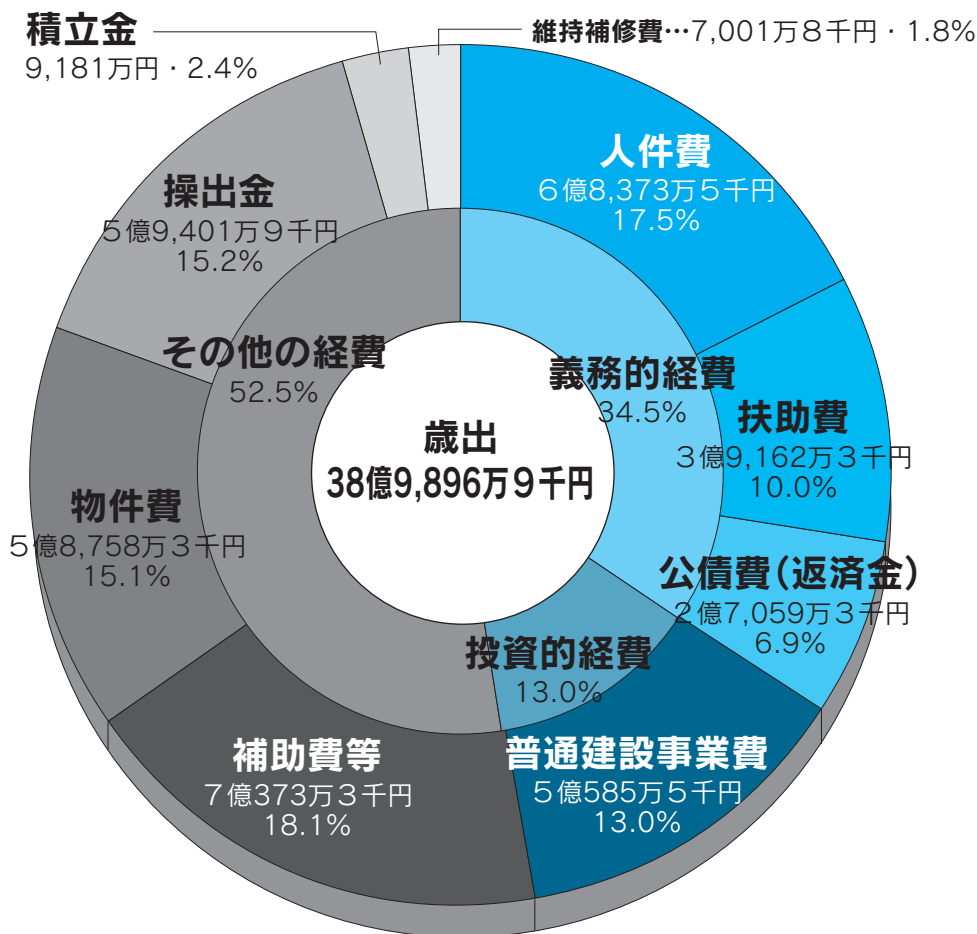
「決算」

平成24年度昭和村一般会計及び特別会計決算認定について審議を行い、歳入総額66億7,120万9千円、歳出総額61億6,977万6千円を認定しました。

歳出

一般会計
歳出総額

38億9,896万9千円
(前年度比1.8%増)



8月20日から22日までの3日間、決算審査を行いました。

審査結果の総括的意見

代表監査委員 島田 民夫氏
監査委員 高橋 昇三氏

平成24年度昭和村一般会計及び特別会計歳入・歳出決算書、同事項別明細書、財産に関する調書及び各種基金の運用状況を示す書類等について審査を実施した。その結果、決算書並びに事項別明細書等は、ともに関係法令に準拠し、かつ、前会計年度と同一の基準に従って作成されており、計数も関係書類と符合し正確であり、決算内容も適正であると認められた。また、収支状況、基金及び地方債残高の状況等が示すとおり、財政運営は健全であり、評価できるものである。なお、予算執行状況についても、おおむね適正であると認め

た。今後も、限られた財源を有効に活用し、より一層の村民サービスと村民満足度の向上を図るよう要望する。



3日間にわたり行われた決算審査

9月定例会は、9月4日から13日までの10日間の会期で開催されました。初日は村長から行政報告を受け、承認1件について、即日採決し、議案5件、認定6件については提案理由の説明のみとし、質疑、討論、採決については最終日に行いました。また発議2件が議員提案され、いずれも原案のとおり可決しました。

承認専決処分

平成25年度一般会計補正予算

昭和中学校柔道部が群馬県中学校総合体育大会において優勝、関東大会・全国大会へ出場の派遣費補助金203万1千円増額補正し、財源としては全額を財政調整基金から繰入れ、歳入歳出予算総額は35億9551万3千円となる。

(全員賛成)



関東大会に出場した昭和中学柔道部

規約の変更

利根沼田広域市町村圏振興整備組合の規約変更に関する協議

「地域社会における共生

の実現に向けて新たな障害保険福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」が交付されたことに伴い、「障害者自立支援法」が「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に改正された。現在、広域圏組合で共同実施する障害者の認定区分について改正する。

(全員賛成)

条例の一部改正

昭和村企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化のための固定資産税の課税の特例に関する条例

企業立地促進法に基づき「基盤整備・アナログ技術関連産業」のほか「医療健康・食品産業」が加わった。これらは平成25年4月1日付けで国からの同意を得て改正された。(全員賛成)

補正予算

平成25年度一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ442万9千1百円を追加し、総額3億3,980万4千円とする。

主な歳入は、地方交付税の額の確定により1億6,832万2千円を増額し、農業体質強化基盤整備促進事業補助金1,650万円の増額、財政調整基金からの繰入れ金1億9,850万円の減額。

主な歳出は、地域子育て支援センター事業一時保育促進事業拡充1,23万円、あぐりーむ館の三角テラス部分改修工事費。農村整備事業費2,400万円の増額。

(全員賛成)

平成25年度国民健康保険特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ50万円を追加、総額1億6,648万9千円とする。

主な歳出は、一般保険者保険税還付金50万円を増額する。(全員賛成)

平成25年度介護保険特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ869

万5千円を追加し、総額を7億8,589万9千円とする。

主な歳入は、繰越金79万5千円を増額。歳出では24年度分事業確定により国庫及び社会保険診療支払基金に償還金として431万7千円、一般会計繰出金406万8千円増額する。

(全員賛成)

発議

「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」の意見書

自然災害などの脅威から国民の生命財産を守るための森林・林業山村対策の抜本的な強化を図ることに加え、二酸化炭素吸収源として、森林整備・保全を推進する市町村の役割を踏まえて「石油石炭税の税率の特例」による税収の一定割合を森林面積にに応じて譲与する仕組みの構築を強く求める。提出先

内閣総理大臣 安倍晋三様
財務大臣 麻生太郎様
総務大臣 新藤義孝様

(賛成多数)

9月定例会

あぐりーむ館三角部分改修へ

道州制導入に断固反対する
意見書

町村は、これまで国民の生活を支えるため、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、住民とともに個性ある村づくりを進めてきた。

効率性や経済性を優先し、地域の伝統や文化、郷土意識を無視してつくり上げる大規模な団体は、住民を置き去りにするもので到底地方自治と呼べるものではない。多様な自治体の存在を認め、個々の自治体の活力を高めることが、全体としての国力の増強につながるものであると確信する。

提出先

衆議院議長 伊吹文明様
参議院議長 山崎正昭様
内閣総理大臣 安倍晋三様
内閣法第九条の第一順位指定大臣(副総理) 麻生太郎様
内閣官房長官 菅 義偉様
総務大臣 新藤義孝様
(全員賛成)



被害状況を調査

9月18日
台風18号による被害状況報告

全員協議会

9月24日

9月16日の未明から正午にかけて接近・通過した台風18号による被害状況について説明があり、その後、当局とともに現地調査を行った。総雨量は56ミリで、倒木30本、土砂流出10数カ所のほか、ビニールハウスが一部はがされた。また、追分地内では、村道の路盤が洗掘されて舗装部分が流されたところもあり、農作物では、こんにゃく芋や飼料用とうもろこし、ほうれん草などに被害が出た。

昭和三森ゴルフ場・山荘の指定管理
昭和三森施設の管理運営については、平成25年7月1日から27年6月30日までの2年間、グリーンスコール(株)を指定しましたが、指定期間が1年間に短縮された。

昭和三森インター線道路改良計画
昭和1Cから森下・大森神社付近に通じる県道昭和三森インター線が河原橋方面に延長される計画があり、説明があった。

健全化判断比率等の報告

平成24年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率は、次のとおりである。

(1)健全化判断比率

(単位:%)

比率名	24年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 一般会計等の赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化したもの	—	15.0	20.0
連結実質赤字比率 すべての会計を合算し、全体の赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化したもの	—	20.0	30.0
実質公債費比率 地方債(借入金)の返済額及びこれに準じる経費の額が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化し、3カ年分を平均したもの	10.4	25.0	35.0
将来負担比率 一般会計等の地方債や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化したもの	—	350.0	

※「—」は、当該比率が生じていないことを表す。

※いずれかの比率が早期健全化基準以上である場合には、財政健全化計画を定めなければならない。また、いずれかが財政再生基準以上である場合には、財政再生計画を定めなければならない。

(2)資金不足比率

(単位:%)

区分	24年度	経営健全化基準
簡易水道事業 農業集落排水事業 公営企業の資金不足が、公営企業の事業規模である営業収益(料金収入等)の規模に占める割合を指標化したもの	— —	20.0

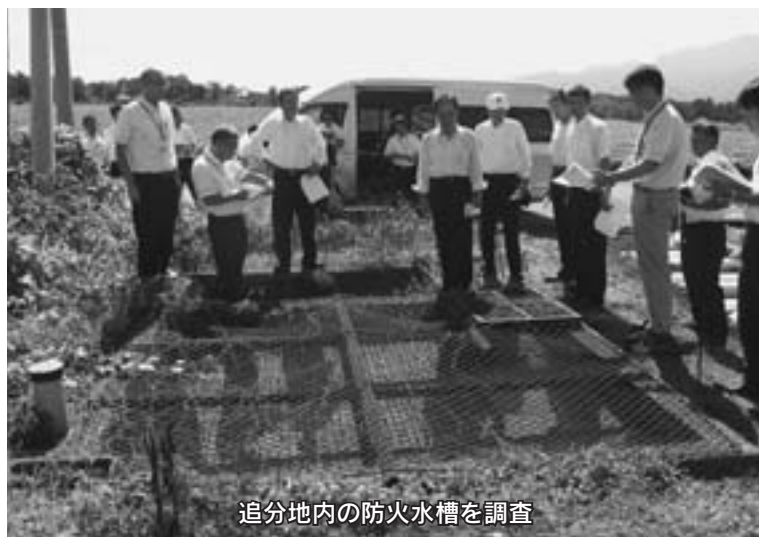
※「—」は、資金不足が生じていないことを表す。

※いずれかの比率が経営健全化基準以上である場合には、経営健全化計画を定めなければならない。

総務民生常任委員会

村政一般、庶務、民生、保健、他の委員会に属さない事項を所管

追分地内の防火水槽撤去を採択



追分地内の防火水槽を調査

9月9日、総務民生常任委員会を開催し、付託された陳情について現地調査を行い、その後、審査した。

2件の陳情を慎重審議

最初に、「追分地内の民有地に設置されている2カ所の防火水槽の撤去」についての陳情では、現地調査をしたところ、当該防火水槽は老朽化が進み、蓋もなく金網も錆び、転落等の危

険性がある。このため、安全面を考慮するとともに、防火水槽付近には消火栓など消防水利もあることから、全会一致で採択とした。

「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情では、群馬県は県土の3分の2を森林が占める森林県であり、森林は二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防

止や、土砂災害の防止、水源の涵養、保健休養の場の提供など多面的機能を有している。森林が荒廃する中で、持続的な整備と保全が急務であり、森林を整備することによって鳥獣害対策にもつながるため、これら財源確保を講ずる必要があることから、賛成多

数により採択とした。

道州制反対の

意見書提出へ

群馬県町村議会連合会から要請のあった「道州制導入に反対する意見書の提出について」は、道州制導入により、事務権限の受け皿という名目のもと、ほとんどの町村においては事実上の合併を余儀なくされるおそれが高く、道州はもとより再編された「基礎自治体」は、現在の市町村や都道府県に比べ、住民と行政との距離が格段に遠くなり、住民自治が衰退する。これらを踏まえ協議した結果、意見書(案)については一部修正を行い、提出することに決定した。

このほか、平成24年度各会計歳入・歳出決算における当委員会所管事項などについて質疑を行うとともに、各般にわたり意見交換をした。

みなさんからの請願・陳情

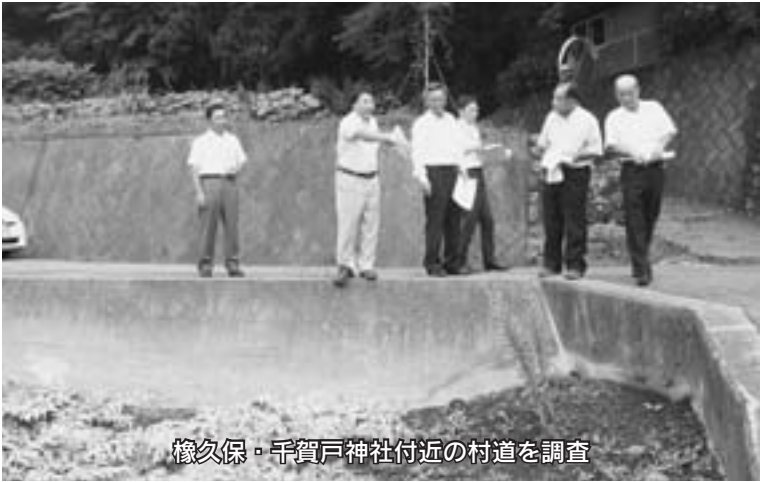
自 平成25年6月7日 至 平成25年8月26日

受理番号	受理年月日	件名	請願・陳情者	紹介議員名 紹氏	付託委員会	審査結果
54	H25.6.7	陳情書 防火水槽の撤去についてのお願い	追分区長 星野良雄 第9分団長 飯塚昭雄		総務民生	採択

文教産建常任委員会

教育、産業、経済、土木、建設、簡易水道、農業集落排水等に関する事項を所管

請願・要望箇所の現地調査を実施



檜久保・千賀戸神社付近の村道を調査

要望箇所の「村道桂坂板戸線」では、落石や崩落の危険性があるた

適切な対策を
当局に要請

で、車両が脱輪し、隣接する畑に転落することもある。また、豪雨時には、既存のグレーチングでは上方からの雨水を処理しきれず、住宅地に流れ込むことから、全会一致で採択とした。

9月10日に開催された文教産建常任委員会では、付託された案件、要望箇所の現地調査を実施し、審査した。

村道改良工事を採択

「村道大坂千賀戸線及び村道小岩2号線道路改良工事」についての請願では、当該村道は地域住民の生活道路として利用されている。しかし、2路線ともに

道路幅員が狭いため、車両のすれ違いが困難



法面保護を要請した村道桂坂板戸線



給食用椅子付きテーブル

め、法面を保護するなど適切な対策を講じるよう当局に要請した。

次に、「南小学校の給食用椅子付きテーブル」は、給食時における低学年生の姿勢に悪影響を及ぼし、また使用時には金属音がして話が聞こえないとの指摘がある。そこで、食育にもよくないことから、低学年用椅子付きテーブルについて調査するよう当局に要請した。

このほか、平成24年度各会計歳入・歳出決算における当委員会所管事項などについて質疑や意見交換等を行った。

55	H25.8.14	「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣一徳		総務民生	採択
56	H25.8.26	村道大坂千賀戸線及び村道小岩2号線道路改良工事のお願い	檜久保北部区長 林 栄一 〃 南部区長 角田文久 三ツ谷区長 新木恵一	兵藤喜孝	文教産建	採択

一般質問

メガソーラー 村営大規模太陽光発電の 設置を求める



加藤 生 議員

問

村でメガソーラー発電を行い、売電する利益で村内全体の年間約5千万円の保育料財源に当てる考えはあるのか。

答 村 長

メガソーラー発電の売電を財源とした保育料の無料化は、メガソーラーを設置する難しさや専門知識が薄いので、具体的に進めることが出来ませんでした。今後も企業が投資をして進めて行くこ

問

とに協力をしていきたい。村のエネルギー自給率向上を目指す考えはあるのか。

答 村 長

グリーンニューデール基金を活用して平成26年、27年度の2カ年で役場、学校、道の駅や災害時に防災拠点となる公共施設に蓄電施設を備えた太陽光発電システムを導入し、エネルギー自給率の向上に努めたい。



「サンファーム千年の森 昭和」を視察

問

地域需要に沿った子育て支援策を練るため政府が自治体に設置を求めている子ども・子育て会議について、本村は県内5つの未定町村に含まれているが設置する考えはあるのか。

答 村 長

本年度中に要綱の整備を行い、設置を検討しています。また「子ども・子育て会議」については、保護者や多様な方面から構成員を募り、幅広い意見を聞く仕組みにしたいと考えています。

子ども・子育て会議設置を

村道整備と農集排補助金は

問

集落内道路の舗装の亀裂や凹凸等で良好に通行できないこれらの解消について計画的な施工をどう考えるのか。

答 村 長

集落内道路は生活に密着した道路であるので損傷具合や利用状況など現地を調査した上で行いたい。また、計画については現地を調査し出来るように努力をしたい。

問

農業集落排水事業の今後の運営管理

答 村 長

交付事業が終了しました。毎年新規加入は10戸程度であり、加入金50万円は、新築する若年世代に大きな負担となるので、定住者に対する新たな補助金について調査検討をし進めていく考えです。



兵藤 喜孝 議員

姿勢問う

半日観光・交流事業の推進を

問

今、農業においても目まぐるしく時代が変化の中で、多くの人たちが将来に対して不安を持っている。もちろん、村の基幹産業の農業を守り、長期的な安定に向けた取り組みを行っていくことは当然のことである。

しかし、他の問題も同時に考えていかなければならない。そして、村長をはじめ、村当局が農業以外の柱が見つからず、進む道を迷っている現実が、一番の問題ではないか。この問題解決なくして、他の問題の解決はありえない。

村を見つめ直した時、交通の便の良さは、大きな利点でもあり最大の魅力である。実際に、村の農産物も利便性を活かした流通を行い、大きな成果を上げている。都会から1時間半から2時間で来られるというところは、観光や交流には大きなメリットであり、無限の可能性を持っている。でも、

昭和村は宿泊を含めた観光は受入体制が整っていないことなどから、今目指す方向ではないと考える。

しかし、観光客には自然の中で癒しを求め、地場の旬の食べ物を味わい、手作り体験など地元の人たちとふれあい、夕方には家に戻るという半日観光を望む人たちが多くいる。昭和村には、そういう人達の望む資源が豊富にある。

その資源を磨き上げ、半日観光・交流に焦点を合わせた取り組みを推進していくことを望むが。

答 村 長

道の駅「あぐりーむ昭和」がオープン以来、観光交流室を拠点とし、野菜の収穫体験や野菜畑あぜ道ハイキング、駅からハイキングなど、日帰りで楽しめる様々な事業を展開してきました。平成24年度では、野菜の収穫体験への参加者が1613人、野菜畑あぜ道ハイ

キングの参加者89人、今年7月に実施した駅からハイキングでは250人の参加がありました。

昨年から農業体験教室である「あぐりーむ学校」を開校し、本年は14家族が申込み、キュウリ・ナス・トマトなどの収穫を楽しんでいます。

また、ミキハウス子育て総研及び小学館との連携により一坪農園を募集し、6家族が参加するなど様々な事業に取り組ん

でいます。

今後も、道の駅を拠点とし、野菜の収穫体験、高原地帯の景観を楽しむながらのハイキング、こんにやく作り体験などを組み合わせ、ボランティアガイドの会等の協力も得ながら地元の人たちとの交流も視野に入れ、来訪者が楽しんでいただける半日・日帰り観光として、さらに充実したプランなども考え取り組んでいきたい。



6家族が参加の一坪農園

一般質問

無料Wi-Fi(ワイファイ)増設を



林 幸司 議員

問

スマホ等が普及するなか、2億円余を投じ光ファイバー網100%整備を実施したのだから、ＩＴ先進村をめざし、民間や道の駅、公共施設等へ無料アクセスポイントを増やすよう求める。

答 村 長

村内では役場前のコン

ピロリ菌の無料検査等の実施を

問

ヘリコバクター！ピロリ菌の除菌治療が、ガン予防に効果が大きく保険適用となり、除菌を希望する人が増えている。

ガン検診時に、希望者無料保菌検査を行えば、健康増進に役立つ。

また、今年度から沼田市等が実施している、低所得者窓口減免制度の早期実施を求める。

答 村 長

ピロリ菌検査は、県内

高齢者・障がい者にやさしい村づくりを

問

庁舎は、耐震改修と全面新築どちらなのか。その際は、バリアフリートイレとエレベーターの設置を求める。

高齢者等への聞こえ支援に、窓口と公民館等へ磁気ループシステムの早期導入を求める。

高齢者見守り対策の現状と、諸団体との見守協定を増やすよう求める。

答 村 長

改修か新築かは、検討委員会・議員・住民の皆様の意見を聞き、十分に議論検討し判断したい。

車イスが使えるトイレやエレベーターは検討委員会で検討したい。

磁気ループの効果等を調査研究し検討していきたい。

2社と契約し、ひとり暮らしの方へ緊急通報装置を貸与し、敬老会や民生委員活動、配食サービスなどでも見守っています。郵便局など諸団体の協力は不可欠であり、協定は前向きに検討したい。



エレベーターがないため期日前投票所を仮設で設置

未永い友好関係を確固たるものへ

10月6日、16回目を迎える「昭和の秋まつり」が総合福祉センター駐車場を主会場に開催され、おおよそ1000人の来場者でにぎわった。

この日は、横浜市消防音楽隊の演奏、横浜市ブースや横浜緑の協会などの出店もあり、正

午から「横浜市と昭和村の友好・交流に関する協定締結式」が開始された。締結式には、昭和村から堤村長、藤井議長、横浜市から林文子市長、佐藤祐文議長が出席。村議会議員や農業委員、横浜市民議員団等が見守る中で行われた。



これまでの友好関係を礎に協定を締結

横浜市とは、昭和47年に「横浜市赤城山市民野外活動センター」(現「赤城林間学園」)が開設され、以来40年以上にわたり交流が続けられ、平成17年には、「災害時における相互応援に関する協定」が締結された。

今後は、これまで培ってきた友好関係を礎に、それぞれの風土・地域性をお互いに尊重し合う中で、本協定に基づき、様々な分野での相互協力を行い、村民と市民との活発な交流などが行われるよう期待する。

下草刈りで心地よい汗

7月24日、議会・農業委員会・さくら工房合同により、総合運動公園内の下草刈りを行った。

この下草刈りは、環境美化の一環として毎年行われているもので、参加した60人は雨天の中、各自持参した草刈り機で奮闘。約2時間かけ、見通しと風通しの良い森林空間となった。



草刈り機で奮闘

望郷ラインを1066人が走行



総合運動公園を出発

8月18日、村総合運動公園を出発点に望郷ライン・センチュリーライドが開催された。

当日は県内外から1066人が参加。みなかみ町後閑集落センターまでの110km、川場ふれあいの家までの78km、南郷の曲屋までの40km、早起き村までの18kmの4コースで行われた。

参加者は雄大な景色を心と体で感じ、楽しみながら自転車走り抜けていた。

中学生海外派遣事業継続発展へ



昭和村旗を前に記念撮影

■参加者

藤井 富夫(議 長)	堤 盛吉(村 長)
高橋 昇三(副議長)	中里 信幸(文教産建常任委員長)
兵藤 喜孝(村づくり対策特別委員長)	角田 正良(議会事務局長)

7月3日から9日までの日程で、アメリカオレゴン州、イーグルポイント市を表敬訪問しました。参加したのは、藤井議長ほか議員3人、堤村長、議会事務局職員の6人。同市とは、平成8年に本村に赴任したA・L・T(外国語指導助手)のジョン・ペイン氏の出身地だったことから、10年度に中学生海外派遣事業が始まるなど交流が進められ、17年に友好姉妹都市となりました。今回の訪問は、イーグルポイント市のラッセル市長からの招待を受け実施されたもので、中学生海外派遣事業の推進をはじめとする今後の交流発展について意見交換が行われました。

デニス前校長のご冥福祈る

9時間のフライトを終え、サンフランシスコ空港には、現地時間で7月3日、午前9時30分に到着。同空港を経由して、午後1時30分にオレゴン州のメド

フォード空港に到着しました。気温は35℃、快晴。ホテルは空港から5分のところにあり、本村中学生海外派遣事業の引率者が毎年、宿泊しています。



ホストファミリーを招待し楽しい会食

まず最初に、デニス前校長先生の自宅を訪問しました。デニス前校長は、昨年8月にお亡くなりになりましたが、本村中学生海外派遣事業の立ち上げからお亡くなりになるまでの間、ご尽力をいただいた方で、奥様のキャッシーさんに直接会って、お悔やみとお礼を述べることも今回の渡米の

目的の一つでした。堤村長はキャッシーさんに、「中学生海外派遣事業が継続しているのは、デニス校長夫妻のお陰。デニス校長のご冥福をお祈りいたします」と述べ、藤井議長とともに、メッセージと花束などを手渡しました。これを受け、キャッシーさんは、「デニスのことを

忘れずにいてくださり感謝します。これからは、私と娘達でサポートしていきたい」と、今後の中学生海外派遣事業の支援について前

ホストファミリーと会食

向きに述べられました。その後、イーグルポイント市内のチーズ工場やチョコレート工場、ワイナリーなどを見学しました。

午後6時15分からは、これまで本村中学生を受け入れてくれたホストファミリーとの会食です。この日は、ゴメスさんファミリー5人、ケイスさんファミリー4人、ホップスさんファミリー2人、中学生海外派遣事業のコーディネーターをしてくださるテリー先生の計12人と対面。堤村長が「これまで大変お世話になり、心から感謝申し上げます。皆さんのお陰で、中学生海外派遣事業を継続することができま

す」と挨拶をしました。その後、高橋副議長の乾杯で会食が始まり、ホストファミリーから「昭和中学校の生徒は、礼儀正しく行

小学校など市内を見学

7月4日、イーグルポイント市役所でラッセル市長等と待ち合わせをし、午前8時20分、朝食会場であるグレンジホール（農家の人の集会場）に到着しました。

ここでは、ボーイスカウトによるパンケーキパーティが行われていました。朝食を済ませた後、徒歩で市内を見学。サーモン

が遡上する川の上に架けられた「屋根付き橋」やセントアル・プラザ（100年記念の公園）、消防署、ヒルサイド小学校などを案内されました。昨年、完成した小学校は、中心棟と4つの棟からなり、24教室ありました。カフェテリアやコンピュータールーム、給食の調理室などもあり、幼稚

は、「また、昭和村に行きたい」と話していました。参加者は料理を食べながら、お互い談笑し、楽しい会食となりました。



デニス前校長宅を訪問

園クラスから5年生まで500人の児童が学び、24人

の先生と10人のアシスタントにより運営されています。

独立記念パレードに参加

午前11時から、アメリカの独立記念日を祝してパレードが行われました。堤村長はラッセル市長とオー

ブンカーに乗り、沿道の市民の大歓声に笑顔で応え、藤井議長ほか4人は、司会者と同じ特設ステージに席



市役所内の議場で意見交換

を用意され、次々と目の前を通過するパレード参加者に声援を送っていました。

その後、市長が経営している、1872年（明治5年）にできた「水車小屋」を見学。この建物では、水力発電により小麦やトウモロコシなどの粉を引いていました。また、建物内にはアンティークな家具や雑貨などが所狭しと並べられていました。市長は、9歳のときから古い物を集め始めたとのことで、「水車小屋」の隣には、市長所有のアンティークものを販売してい

る建物がありました。

午後5時から始まるバーベキューに招待され、市長宅を訪問。バーベキューには、デニス前校長夫人のキャッシーさんやジョン・ペイン氏の両親、市議員、郡の議員、市の職員など関係者約60人が集まり、挨拶を交わしたり記念撮影をするなど、和やかな雰囲気などで歓談が行われました。その後、イーグルポイント高等学校に移動し、花火大会を観覧しました。

交流事業を積極的に推進

7月5日、午前9時5分、イーグルポイント市役所に到着。市長と4人の市議、ジョン・ペイン氏の両親の計7人が出迎えてくれました。市役所内のホールには、加藤前村長が贈った2枚の着物がガラスケースに入れられ、飾られています。議場には、本村との友好宣言書や本村から贈ら

れた掛け軸などが飾られていました。堤村長と藤井議長はラッセル市長に、昭和村旗とフォトコンテスト入賞作品を印刷した「デイスプレー」などを贈りました。続いて、中学生海外派遣事業の継続や今後の交流の進め方などについて意見交換が行われ、ラッセル市長から、「これから、昭和村

の子どもたちを受け入れるとともに、積極的に交流事業を進めたい」との前向きな発言がありました。

その後、イーグルポイント市の方々に3日間のお礼を述べるとともに、8月3日から始まる今年度の中学生海外派遣事業についてお願いをし、市役所を後にしました。

この日は、サンフランシスコが霧のため、4時間25分遅れて午後6時にメドフォード空港を出発。サンフランシスコ空港を乗り継ぎ、ロサンゼルス空港には翌日の午前0時20分到着となりました。



沿道の市民に応える堤村長とラッセル市長

観光農場などを視察

7月6日、「アンダーウッド・ファミリー・ファーム」という農場を視察しました。ここは、1994年

(平成6年)に観光農場としてスタート。従業員は、農場や直売所などで64人が働いており、年間40万から50

万人の観光客が訪れ、6億2千万円の売上があり、経営は安定しているとのこと。150エーカー(約61畝)の畑には、トマトやレタス、おくら、なす、ブ

か、くるみなどが栽培されており、トラクターで引くワゴンに乗って農場内を見学しました。また、この農場内には楽しい乗り物や動物広場を設置するなど、子どもたちも楽しめるような

工夫がされていました。7月7日には、アリゾナ州にある、コロラド川が削り出した大きな渓谷「グランド・キャニオン」の見学を行い、帰宅の途につきま

表敬訪問を終えて



議長 藤井 富夫
姉妹都市であるイーグルポイント市への訪問は、平成17年以来、

2回目となりました。今回の訪問では、ラッセル市長から、本村中学生の受け入れ支援や本村との友好関係の継続などについて前向きな発言をいただきました。
また、アメリカの独立記念パレードに参加させていただき、市民の方々に友好関係をアピールできたのではないかと考えています。昨年亡くなられたデニス前校長先生宅の訪問やホストファミリーとの交流会では、これまでの協力に対して感謝を述べる機会を得ました。これからも、交流を通してお互い理解を深め合い、信頼関係を基づいた友好関係を築いていきたいと思っています。



副議長 高橋 昇三
本村と姉妹都市提携を結んでいるイーグルポイント市を訪問し、

中学生海外派遣事業のホストファミリーやコーディネーターのテリー先生に会い、感謝を述べるとともに、継続のお願いをしてきました。また、昨年亡くなられたデニス前校長先生宅を訪問し、お悔やみを述べることができました。
今後の交流事業の拡大や中学生海外派遣事業の発展などを胸に渡米したわけですが、ラッセル市長や市議会議員等との意見交換の中で、お互い交流を深め、中学生海外派遣事業の充実のため協力していく旨の発言がありました。今後



文産建委員長 中里 信幸
中学生海外派遣推進委員長の立場から、これまでお世話になった

方々にお礼を述べ、この目でイーグルポイントやホワイトシティを見たかったのが参加した理由です。
ラッセル市長やビル議員夫妻、キャッシー議員、ジョン・ペインの両親には、空港の迎えから最後の市庁舎訪問まで案内をしていただき、頭の下がる思いでした。また、デニス前校長先生宅を訪ね、奥様に感謝の言葉を述べました。ホストファミリーの皆さんやホームステイのコーディネーターのテリー先生には、会食しながらお礼や今後をお願いをしました。今回の訪問を通して、ラッセル市長の昭和村に対する温かい思いを肌で感じる事ができました。



村づくり対策委員長 兵藤 喜孝
イーグルポイント市を訪問し、中学生海外派遣事業の大切さ

を確認することができました。大きな自然と古き良きアメリカを感じさせる、とても環境のすばらしい場所でした。ホストファミリーの方々はもちろんのこと、地域の方々も、昭和村の中学生が来ることをとても楽しみにしており、特にしつけの良さに驚いていました。しかし、ホストファミリーの減少など問題点もあり、継続する難しさを痛感しました。村にとって大切な事業ですので、問題点の解決を行い、円滑な推進が図られるよう努めていきたいと考えています。
最後に、ラッセル市長をはじめ、お世話になった皆様に深く感謝申し上げます。



昭和の輝きに満ちた大地



今回の「みんなの声」も前回に引き続き、4月13日開催の「さくらの木記念植樹」に参加された若いカップルに登場していただきます。

新生活がスタート、
知り合いも増える



桑原孝明さん 夫妻(赤城原第2)
喜子さん

今年の4月に、夫の故郷である昭和村にやって参りました。関東平野の真ん中出身の私には、昭和村の風景はとても新鮮に

映りました。真つ平らな畑はほとんどなく、一つひとつの畑の面積も地元とは桁違いで、農業デビューしたての私でも規模が違うのだと分かるほどです。そして、沼田から昭和村を望むと、「これが小学校で習った河岸段丘だ!」と実感したのを覚えています。

また、地域のつながりが希薄化してきている中、半年間でも記念

13年ぶりの昭和村、
改めて魅力を感じる



加藤道博さん 夫妻(中内出)
彩さん

私は18歳で昭和村を離れ、今年13年ぶりにUターン就農しました。

植樹、ソフトボール大会、お祭りなどたくさん行事がありました。このような行事を通し、入ったばかりの若妻会のメンバーや夫の同級生と奥様など知り合いも増えました。不安ながら新生活をスタートした私たちを快く迎えて下さり、とても感謝しています。これから、昭和村の明るい未来の一助となるよう頑張ります。

昭和村を離れている期間は、東京、名古屋、函館などに住んでおりました。どこも住めば都でそれぞれの良さもありましたが、13年ぶりに帰ってきた昭和村は違っていました。以前は当たり前だと思っていた、自然・農業・地域のつながり。今、改めて昭和村の魅力を感じています。

昭和インターを降りる際に広がる谷川・三峰・武尊などの雄大な山々、農業では水が潤沢で大規模に整備された農場、若い世代が多く力があふれる地域。このような恵まれた環境であることを実感しています。

妻も、村外から昭和村に来ましたが、生活するのにとても良い環境であると感じています。

これからは、2人合わせてこの環境に貢献できるよう農業に取り組んでいきたいと思います。

昭和村民として、行事やイベントに参加したい



見城正義さん 香さん 夫妻(森下中組)

1月1日に籍を入れ、平成25年から昭和村民としての生活が始まりました。

28年間、沼田市民として生活してきましたが、初めは昭和村に馴染めるか不安でした。

ですが、優しい地域の人たち、義父、義母に囲まれての生活で不安など消えていきました。沼田市と違い、多くの地域行事、村の

第1回議会報告会の開催

3会場とも午後7時開会となりますので、お気軽にご参加ください。

開催日	場所	備考
10月12日(土)	地域活性化センター	終了
10月20日(日)	昭和村役場	
10月26日(土)	赤谷住民センター	

イベントなどがあり、地域の人たちとの繋がりが自然と強くなり、より良い昭和村づくりに繋がっているのだなあと感じました。一番驚いたのが、昭和村の消防団活動です。日々の活動が私たちの一日一日の安全や安心を支えてくれているのだと改めて実感しました。

これからは、昭和村の村民として色々な行事やイベントに参加して、より良い昭和村の発展に協力できればと思います。

議会の動き

7月

- 24日 ●群馬県町村議会議長会役員会
農業委員会・さくら工房と総合運動公園内下草刈り
- 26日 ●議会全員協議会
議会広報編集特別委員会
中学生海外派遣事業壮行会
- 29日 ●沼田市外二箇村清掃施設組合
議会臨時会
広域組合議会定例会
利根郡町村会自治功労者並びに永年勤続功労者表彰
- 31~1日 ●利根郡町村議会議員・事務局長
研修会(猿ヶ京ホテル)

8月

- 8~9日 ●国道401号改良整備促進期成
同盟会総会並びに要望行動
- 10~11日 ●茨城県取手市との相互交流事業
- 15日 ●群馬県戦没者追悼式
- 18日 ●望郷ライン・センチュリーライド
- 23日 ●議会全員協議会
議会広報編集特別委員会
前昭和村長・加藤秀光氏旭日小
綬章受賞記念祝賀会
- 26日 ●利根地方総合開発協会理事会
利根郡町村議会定例議長会

利根沼田学校組合議会議員協議会
利根沼田学校組合議会定例会
ミキハウス子育て総研(株)及び
小学館集英社プロダクションとの意見交換会

- 27日 ●議会運営委員会
村民運動会打ち合わせ会議
- 28日 ●介護保険運営協議会
地域包括支援センター運営協議会
地域密着型サービス運営協議会
- 29日 ●簡易水道運営協議会

9月

- 2日 ●利根沼田地区防犯協会定期総会
- 4日 ●第4回昭和村議会定例会開会
本会議(初日)
- 5日 ●議会全員協議会(決算説明)
- 6日 ●議会全員協議会(決算説明)
- 9日 ●総務民生常任委員会
- 10日 ●文教産建常任委員会
- 11日 ●議会全員協議会
- 13日 ●本会議(最終日)
- 14日 ●昭和中学校秋季大運動会
- 18日 ●議会広報編集特別委員会

議会全員協議会

- 19日 ●中学生海外派遣事業報告会
- 21日 ●小学校秋季大運動会
- 24日 ●議会広報編集特別委員会
議会全員協議会
- 26~28日 ●利根郡町村議会議長会県外研修視察
(岩手県大槌町、東北電力女川
サービスセンターなど)
- 28日 ●保育園運動会
- 29日 ●村民運動会
- 30~1日 ●全国議会議長会議会広報研
修会(東京・砂防会館別館)

10月

- 2日 ●群馬県知事への要望並びに群
馬県議会への請願行動
- 3日 ●議会運営委員会
議会広報編集特別委員会
- 6日 ●第16回昭和の秋まつり
- 9~11日 ●総務民生常任委員会視察研修
(奈良県広陵町、和歌山県印南町)
- 12日 ●第1回議会報告会(地域活性化
センター)
- 13日 ●消防団秋季点検

地域でがんばる人

大竹 武宜さん（追分）

我が村は自然が作った山々と起伏、緑の林に囲まれた素晴らしい農村だと思う。

以前、東毛・館林の知人が「山が近くに見え、坂があり、作物の種類も豊富。こういう所をオールラウンドな農業地帯と言うんだろうなあ」と言っていた。「東毛はどっちを見ても平坦で」と、羨ましそうに会話したのを想い出す。

人は時として、無いものねだり。日常生活では、坂があつたり曲がつたりと少し不便であつても、自然が作った景色を子ども頃から見ていると、感受性が豊かになると本で読んだことがある。



満開のアジサイ

「計画から5年」、村全体で行っている道路愛護、我が3班は村外者の通行も多く、通学路もある区域であり、そこに少し広い場所がある。そこへは缶類・その他いろいろなものが投げ捨てられ、清掃時には10袋以上の時もある。その場所は村の土地なのだが、許可を得てアジサイを植え付けている。約300メートルの区間に植え付けた230本の株は、地域の人・沼田・白沢の知人より分けてもらった。

雑木の整理に2年、植え付けに3年ほどかかり、去年より咲き始めた。今年は、全株7月初旬頃から8月中旬頃まで咲いていた。

アジサイを植え、咲き始めてからは、道路沿いの空き缶等の投げ捨てが半減している。

秋の健康ちよつとレシピ

（昭和村管理栄養士 堤 梨紗）

材料（4人分）

生鮭…4切、生しいたけ…2枚、しめじ…100g、えのきたけ…100g、舞茸…50g、ごま油…小さじ1、**A**【しょうゆ…大さじ2、水…大さじ2、酢…大さじ4、すりごま（白）…大さじ2、赤唐辛子…少々】、片栗粉…適宜、サラダ油…適宜

作り方

- ①鮭は半分切る。
- ②しいたけは薄切りに、しめじは石づきをを切り小房にわける。えのきたけも石づきを切り三分に切り、舞茸は手でほぐす。
- ③ボウルに**A**の調味料を混ぜ合わせておく。
- ④フライパンにごま油を熱し、きのこを炒め、③のボウルに入れ、混ぜ合わせる。
- ⑤鮭に片栗粉をまぶす。
- ⑥フライパンに油を足し、鮭を入れ、両面を揚げ焼きにする。
- ⑦熱いうちに④のボウルに入れ、ざっくり混ぜ合わせる。



栄養価（1人分）

熱量…194kcal、たんぱく質：20.7g、脂質：10.4g、塩分：1.3g

ワンポイントアドバイス

- ・鰯や秋刀魚でも美味しくできます。
- ・野菜を素揚げにして加えてもいいでしょう。
- ・きのこは食物繊維、ビタミン、ミネラルを豊富に含んだ低カロリー食品です。便秘予防や高血圧、動脈硬化の予防・改善効果など様々な良い働きがあります。

鮭ときのこの南蛮漬け

編集室から

私が今日、不思議に感じるのは、日本国、日本人はどこへ行ってもしまったのかということ。国技である相撲は幕内力士の3割が外国人、ゴルフも野球もスポーツ界全体を見ても外国人の活躍が目立っています。昔の日本人魂は、どこへ消えたのかと考えてしまいます。

そして、自然界では、今度は竜巻やゲリラ豪雨による被害が多発し、こうしたことはよその国の出来事だと思っていました。が、その上、地震、雷、台風、渇水と、近年は「災害日本」と言われるくらい何か試練を与えられているように思えてなりません。被害に遭われた方が一日も早く立ち直られますよう心から応援しております。

角田 茂 記

議会広報編集特別委員会

委員長 加藤 美昭

副委員長 兵藤 喜孝

委員

倉澤 俊雄 角田 茂

加藤 生 星野 吉一

山田 博昌 藤井 富夫

高橋 昇三